

気候変動に対応した飼料作物の栽培

1 目的

近年の温暖化傾向により、高温、豪雨などの気象災害が増加している。牧草地においても高温による夏枯れで雑草が繁茂し、収量や品質に影響を与えている。一方で草地更新の際に豪雨等で播種時期を逸したり、播種したものが流されて再播種となるなど、適期に播種できない事例も散見される。

そこで、播種時期が遅れた場合の栽培体系について検討を行い、良質な牧草を安定して生産できる体系を提示する。

2 研究計画・試験方法等

フロストシーディング(初冬季播種)の地域適応性試験

草地更新を適期(9月)に行えなかった場合の対応策として、フロストシーディング(初冬季(12月前半)播種)と春播種(3月)の牧草の定着状況等を比較検討する。

フロストシーディングとは発芽に適さない初冬時期に播種し、種子の状態越冬させて翌春の融雪後に発芽させる方法

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
慣行	播種・発芽									1番草収穫
フロスト				播種			発芽			1番草収穫
春播種							播種	発芽		1番草収穫

↓フロスト ↓春播種 ↓慣行9月播種

↓フロスト ↓春播種 ↓慣行9月播種



3月中旬春播種時



4月下旬

